



## 2. 授業研究モデル化のために

海外では授業研究はないといういい方もされれば、あるといういい方もされる。そこで授業研究の定義が必要になる。

授業研究とは、教師による自律的な授業改善の仕組みであり、教材研究、研究授業（公開授業）、討議・教訓というような流れを再帰的に繰り返す仕組みであるというのがごく一般的な定義である（例えば馬場卓也による協力隊派遣前研修資料 2003）。では、日本以外の国でそのような習慣をもつ国はないかといえ、ある。例えば、2003 年度数学オリンピック優勝国ブルガリアには、それと類似とみなしえる仕組みがある。途上国においても指導案はある。授業参観もある。稀であるのは、互いの授業を批判しあう討議・教訓の仕組みである。

そのように考えるとき、では、どのような仕組みを備えていればこそ、日本の授業研究と言えるのかが問題になる。その問いに答えるべく、現在世界的に注目される日本の授業研究を、算数・数学教育の立場から概観するための視野として以下を、設定してみた。

図 2 . 授業研究を語る視野

### ・日本の算数・数学授業研究

- (1)日本の教育と授業研究概観
- (2)日本の授業研究史概観
- (3)授業研究組織とそれをささえる背景
- (4)教育課程とその実現のための授業研究
- (5)海外からみた日本の授業研究

### ・研究授業の方法

- (1)授業の準備
- (2)日本に特徴的な授業展開モデル
- ・日本数学教育学会における研究の動向
- (1)小学校における授業研究
- (2)中学校における授業研究
- (3)高等学校における授業研究

### ・様々な授業研究

- 事例 1 . 大学と附属学校の連携
- 事例 2 . 附属のカリキュラム開発
- 事例 3 . 教育委員会、現場、大学の連携
- 事例 4 . 授業研究サークル
- 事例 5 . プレサービスプロジェクト
- 事例 6 . 文部科学省支援授業研究プロ

### ・国際的な共同研究と国際教育協力

- 事例 1 . 国際授業比較研究プロジェクト
- 事例 2 . タイにおける授業研究
- 事例 3 . シカゴにおける算数授業研究
- 事例 4 . 日米の授業研究プロジェクト
- 事例 5 . オープンエンドの授業研究
- 事例 6 . フィリピンにおける授業研究
- 事例 7 . カンボジアにおける授業研究
- 事例 8 . ラオスにおける授業研究
- 事例 9 . インドネシアにおける授業研究
- 事例 10 . エジプトにおける授業研究
- 事例 11 . ケニアにおける授業研究
- 事例 12 . ガーナにおける授業研究
- 事例 13 . 南アフリカにおける授業研究
- 事例 14 . ホンジュラスにおける授業研究

例えば、授業研究組織とそれをささえる背景には、日本固有の事情がある。日本では、授業研究は、教師のキャリア開発の基盤として学校、教育委員会で機能している。途上国では、学校 1 つに教師が 1 名、管理職 0 というような学校はめずらしくなく、そもそも、

校内研修や勤務評定とは無縁な状況にある。対するわが国では、教師は、教員集団内で認められてこそ管理職への道を歩めるというような歴史的経過がある。

### **3 . 日本の比較優位としての授業研究の背景**

現職派遣による青年海外協力隊員の活動も含めて、多くの途上国支援において授業研究がなされている。それは、それぞれの国の障害に対して、同じ方法論を採用しているわけだが、その内実は果たして同じであろうか。それが、この課題研究の問題意識である。

日本の比較優位として、世界各国から授業研究が絶賛されていることは確かなことだが、図2で示したような視野の多様性にみるようにそれを成立させる背景の上に成り立っている。その背景を明らかにすることが、途上国支援に役立つと言えるだろう。